

# 令和4年度スポーツ庁委託事業

## 障害者スポーツ推進プロジェクト事業

( 障 害 者 ス ポ ー ツ 用 具 活 用 促 進 事 業 )

### 成果報告書

令和5年3月

高知県文化生活スポーツ部スポーツ課

本報告書は、スポーツ庁の令和4年度障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、高知県が実施した令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ用具活用促進事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

1	事業実施にあたっての基本的な考え方	1
	(1) 事業実施の趣旨	
	(2) 実施体制図	
2	令和4年度事業実施日程	3
3	プロジェクト実行委員会	4
	(1) 会議の目的	
	(2) 検討事項	
	(3) 開催日程	
	(4) 実行委員会名簿	
	(5) 会議要旨	
4	事業実施内容	6
	(1) 車いすラグビー体験教室の開催	6
	(2) 車いすラグビー大会、パラスポーツ体験コーナーの開催	7
	車いすラグビー大会「Freedom Cup 2022」	
	パラスポーツ体験コーナー	
	(3) アンケート集計・分析	9
5	評価指標の達成状況	12
6	購入した車いすの活用の仕組み	12
7	成果と課題	13

**【参考】**

- ・アンケート用紙

# 1 事業実施にあたっての「基本的な考え方」

## (1) 事業実施の趣旨

本県では「第2期高知県スポーツ推進計画」の施策の柱の一つに「スポーツ参加の拡大」を掲げ、地域のニーズや課題に応じた持続可能なスポーツ活動が提供できる体制づくりを進めており、障害者のスポーツ参加機会の拡充についても、県立障害者スポーツセンターを核として、多様なニーズに応じたスポーツ大会や教室等の実施や障害者スポーツの理解啓発を推進している。

また、センターが県中央部の高知市にあるため、遠く離れた県東部及び県西部には、障害者スポーツコーディネーターを各1名配置し、地域の障害者スポーツ指導員や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、障害者とスポーツとのマッチングを行う等により、障害者が地元でも継続してスポーツ活動に参加できるよう、支援している。

他方、昨年開催された東京2020パラリンピックでは、車いすラグビーの日本チームのキャプテンの池透暢選手など本県出身選手が活躍し、県民の障害者スポーツへの関心の高まりにもつながった。

さらに、「令和3年度県民の健康・スポーツに関する意識調査」では、過半数の県民が、障害者スポーツへの関心を高めるためには「誰もが障害者スポーツを楽しめる場を増やす」ことや「アスリートのプレーを間近に見る機会があること」と回答している。

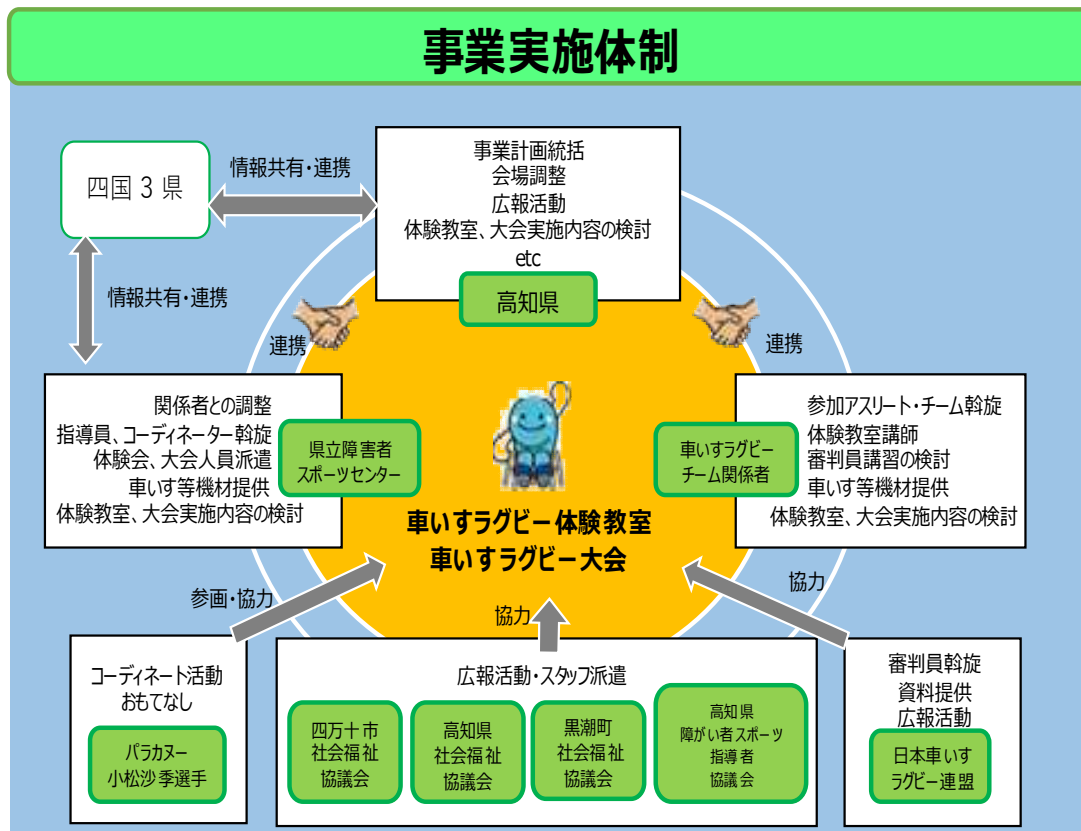
これらを踏まえ、本事業では、障害者のさらなるスポーツ参加機会の拡充や県民の障害者スポーツへの関心を高めることにより、障害の有無に関わらず誰もがスポーツに参加できる共生社会の実現を目指す。

具体的には、県内外のアスリートにご協力いただき、障害者のスポーツ活動を支援する環境が整備されている県西部地域において、子どもたちを対象とした車いすラグビー競技の体験学習や、国内トップクラスのチームによる熱戦が観戦できる大会を開催する。

同時に、四国内に車いすラグビー審判員が居ない現状から、四国4県の車いすバスケット審判員を審判補助として招集し、審判を養成するきっかけづくりとしての機会を創出することで、四国内の車いすラグビー普及活動の推進及び四国4県のパラスポーツ連携強化に繋げる。

また、ラグビー競技用車いすを県立障害者スポーツセンターへ配置し、県内外へ広くシェア・レンタルする仕組みを構築し、障害者のスポーツ活動の促進に加え、県内アスリートの競技力の向上及び地域への社会貢献活動への支援にもつながる体制を構築する。

(2) 実施体制図



【中心となる団体】

- 高知県 …事業計画統括、会場調整、広報活動、活動の検討など
- 県立障害者スポーツセンター …関係者との調整、指導員・コーディネーター斡旋など
- 車いすラグビーチーム関係者 …参加アスリート・チーム斡旋、体験会講師など

【協力団体・協力者】

- 日本車いすラグビー連盟 …審判員斡旋、資料提供など
- 高知県障がい者スポーツ指導者協議会 …指導員派遣など
- 高知県社会福祉協議会 …広報活動、スタッフ派遣など
- 黒潮町社会福祉協議会 …広報活動など
- 四万十市社会福祉協議会 …広報活動など
- 小松沙季選手(パラカヌー) …体験教室コーディネート、体験コーナー運営など

## 2 事業実施日程

実施時期	実施事項			
	実行委員会	体験教室	大会開催	用具の整備・活用
契約締結前	第1回開催 (Web)	実施希望校調査	広報チラシ案の作成	
11月30日 契約締結				
12月上旬	第2回開催 (Web)	実施校との打合せ (1回目)	印刷配布	参加チームへ用具貸出協力要請
12月中旬		実施校との打合せ (2回目)		
12月15、16日		体験教室実施 アンケート実施		体験会・大会での活用
12月17、18日			大会開催 体験コーナー開催	
1月中旬		アンケート集計	アンケート集計	
3月上旬	第3回会議 (Web)			納品・検収
				県内外関係団体等へ シェア・レンタル
				↓

### 3 障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会

#### (1) 会議の目的

体験会、大会及び体験コーナーの実施内容を企画・検討し、車いすラグビーによる障害者スポーツへの関心が高まる取り組みを実施、検証する。また、用具を効果的に活用（シェア・レンタル）する仕組み構築の検討も実施する。

#### (2) 検討事項

- ①体験会、大会の実施内容検討
- ②事業実施による成果の検証
- ③用具のシェア・レンタル仕組み構築の検討

#### (3) 開催日程

- ・第1回（11月12日 17:30～19:30）  
場 所：県立障害者スポーツセンター談話室  
協議内容：事業実施に向けた事前検討
- ・第2回（12月1日 18:30～20:30）  
場 所：県立障害者スポーツセンター談話室  
協議内容：体験会、大会、体験コーナーの内容検討  
広報活動の検討
- ・第3回（3月6日 16:00～17:30）  
場 所：Web 開催  
協議内容：実施報告、成果検証、用具のシェア・レンタル仕組み構築の検討

#### (4) 実行委員会名簿

No	所属・役職	委員氏名	第1回 出欠	第2回 出欠	第3回 出欠
1	車いすラグビー関係者フリーダム主将	渡邊翔太	○	○	×
2	車いすラグビー関係者フリーダム	池透暢	○	○	×
3	車いすラグビー関係者フリーダム	畑中功介	○	○	×
4	車いすラグビー関係者フリーダム	松岡幸夫	○	○	×
5	障がい者スポーツ指導員	岡崎裕	○	○	×
6	障がい者スポーツ指導員	井上由布子	○	○	×
7	県西部障在住障害当事者	小松沙季	○	○	×
8	県障がい者スポーツ指導者協議会	六車耕輔	○	○	○
9	県障がい者スポーツ指導者協議会	福本志満	○	○	○

#### 【事務局】

高知県文化生活スポーツ部スポーツ課  
課長補佐 川崎 瑞女 チーフ 大塚 貴文 主査 矢野 翔大  
高知県立障害者スポーツセンター  
所長 北村 大河

※第1～3回すべて Web 会議での開催とし、事務局のみ会場へ集合  
※委員は全員リモート参加

## (5) 会議要旨

### ■第1回実行委員会

#### 【協議】

- ・スポーツ庁との契約締結前であったが、実施予定日が差し迫っていたことから、実施内容の検討を行った。
- ・体験教室、大会参加チームはフリーダム（高知）、TOHOKU STORMERS（福島）、RIZE CHIBA（千葉）にて調整中。
- ・体験教室対象校について、岡崎委員、小松委員がコーディネーターとして大会会場の所在地である黒潮町の小中学校へ企画提案を行うことで合意。
- ・広報について、チラシ作成は事務局で準備し、配布は事務局とコーディネーターが分担し行うこととした。また同時に、日本車いすラグビー連盟へは渡邊委員と池委員が、各福祉関係者へは事務局が周知を行うこととした。
- ・大会2日間のプログラム、体験コーナーの内容について、渡邊委員が参加チームとの調整のうえ、事務局と意見をすり合わせ、次回までに案を策定する。
- ・事業実施にかかる移動行程について、事務局が組み立てることとした。

### ■第2回実行委員会

#### 【協議】

- ・体験教室、大会参加チームはフリーダム（高知）、TOHOKU STORMERS（福島）、RIZE CHIBA（千葉）に決定。体験教室講師について、フリーダムからは4選手（池、渡邊、松岡、崎山）、TOHOKU STORMERSからは2選手（中町、橋本）、RIZE CHIBAからは2選手（今井、峰島）に承諾をいただいた。
- ・体験教室対象校について、岡崎委員から黒潮町教育長へ案内し、町内で2校から希望が上がったとのこと。また、小松委員からは上川口小学校に希望いただけたとの報告あり、3校との調整を実施することとした。
- ・広報について、チラシ案を事務局より提示。池委員に連盟への確認を要請した。また、配布先について、黒潮町、四万十市、土佐清水市、宿毛市、大月町、三原村の幡多地域6市町村の小学校37校へ配布することとした。
- ・大会プログラム案について、渡邊委員より説明。体験コーナーは、ラグ車試乗コーナー、ボッチャ、カヌーエルゴメーターでの測定会を実施することとし、大会プログラム案と合わせ全体プログラムについて協議、策定を行った。
- ・体験コーナーの運営について、県西部障がい者スポーツ指導員10名の参加について承認を得た。
- ・移動行程について、事務局案をもとに役割分担を行った。

### ■第3回実行委員会


#### 【協議】

- ・車いすラグビー関係者4名、障がい者スポーツ指導員2名、小松委員の参加調整が取れず、障がい者スポーツ指導者協議会、事務局のみで行った。また、成果報告については別途、事務局より各委員へ展開する。
- ・用具（車いすラグビー競技用車いす3台）の活用について、事前に事務局（障がい者スポーツセンター）が車いすラグビー関係者からの意見を集約し、仕組み構築の検討を行った。



## 4 事業実施内容

### (1) 車いすラグビー体験教室の開催

黒潮町の小・中学校での車いすラグビー体験教室			
目的	地域の子どもたちの障害者スポーツの理解啓発、関心を高め、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。		
取組写真			
体験教室講師	黒潮町立上川口小学校…フリーダム（高知）池、渡邊、松岡の3選手 黒潮町立大方中学校 …フリーダム（高知）池、渡邊、松岡の3選手 黒潮町立入野小学校 …RIZE CHIBA（千葉）今井、峰島の2選手 TOHOKU STORMERS（福島）中町、橋本の2選手		
体験教室コーディネイト	黒潮町立上川口小学校…小松沙季選手（パラカヌー） 黒潮町立大方中学校 …岡崎裕氏（障がい者スポーツ指導員） 黒潮町立入野小学校 …岡崎裕氏（障がい者スポーツ指導員）		
取組内容	①車いすラグビー体験 競技用車いすに乗って、ドリブル、パス、スラローム、タックル、試合を体験 車いすを通じたパラアスリートとの交流 ②グループワーク 選手1名づつグループに分かれ、車いすラグビーのことや車いす生活についての話を聞き、質疑応答することで子どもたちの理解を深める		
	実施期日	対象校	参加生徒数
	令和4年12月15日13:30~14:50	黒潮町立上川口小学校	45人
	令和4年12月16日9:40~12:30	黒潮町立大方中学校	40人
	令和4年12月16日13:55~15:30	黒潮町立入野小学校	24人
			<b>109人</b>
成果（○） 課題（●）	○競技用車いすに乗り、選手と一緒に活動することで、障害者スポーツに対する興味、関心が高まり、障害者スポーツへの参加意欲へつながった。 ○グループワークによる障害当事者との交流によって、障害に対する意識や理解が深まるなど、教育的視点での成長が伺えた（学校長所感）。 ●今回参加生徒に障害当事者は居なかったため、障害者のスポーツ参加機会の拡充に直接的につながる活動とはならなかった。		
取組の評価	・県西部での活動が未だ少ないなか、パラアスリートを招致し、学校との活動内容協議を経て生徒へ貴重な体験を提供できたことは良い取り組みであった。今後さまざまな地域で同様の活動に取り組みたい。		

(2) 車いすラグビー大会、パラスポーツ体験コーナーの開催

車いすラグビー大会及びパラスポーツ体験教室	
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラアスリートのプレーを間近に観る機会を提供し、障害者スポーツの関心を高め、実際にパラスポーツを体験することで継続的な障害者スポーツへの参加を促す</li> <li>・審判員養成のきっかけとして、四国4県の連携強化及び車いすラグビー普及に貢献する</li> </ul>
取組写真	
運営スタッフ	<p>高知県及び高知県立障害者スポーツセンター                      フリーダム（高知）                      RIZE CHIBA（千葉）                      TOHOKU STORMERS（福島）                      小松沙季選手（パラカヌー）                      障がい者スポーツ指導員                      車いすラグビー審判（日本車いすラグビー連盟より）                      車いすバスケット審判（香川県、徳島県より）</p>
会場	土佐西南大規模公園体育館
実施期日	
令和4年12月17日（土）～令和4年12月18日（日）	
来場者数	
延べ166人	
取組内容	<p>①車いすラグビー大会「Freedom Cup2022」                      ②パラスポーツ体験コーナー</p>
成果（〇）	<p>○子どもから大人まで、多くの方に車いすラグビーを体験してもらうことで、パラスポーツへの理解啓発に繋がった。</p> <p>○県西部の障がい者スポーツ指導員や福祉関係者との連携が強まり、障害のある方が身近な地域で参加できるパラスポーツイベントの良いモデルケースとすることができた。</p> <p>○パラスポーツ体験コーナーや、観客、選手、スタッフ全員で床掃除での交流を通じて、障害の有無に関わらずスポーツに参加できる共生社会を体感・共有することができた。</p>

課題 (●)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本事業を一過性のものとせず持続可能な活動とするため、他の地域での活動も見据えた推進体制を構築していくことが必要。</li> <li>●四国4県の連携をより強固としていくため、本県の車いすラグビーや各県の特色を活かしたパラスポーツの取組みを継続して実施することが必要。</li> </ul>
取組の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日は高知県ではめずらしい降雪に見舞われたため来場者数の不安があったが、先に行った体験教室に参加してくれた学生やその家族が選手の応援に来てくれたことや、福祉施設の案内で知的障害の子どもが来てくれたり、延べ166人が来場された。広報活動の成果、また体験教室と大会の関連性が機能した結果であったと評価する。</li> <li>・体験コーナーにも多くの方が参加され、障害者スポーツへの実体験や、選手・障がい者スポーツ指導員との触れ合いを通じて、障害者スポーツ参加のきっかけとなる機会を提供できた。</li> <li>・香川県、徳島県から車いすバスケット審判員が車いすラグビーの審判経験のため参加してくれ、四国内の車いすラグビーを支える人材の育成に貢献できたほか、四国4県の連携強化につながる取組みとすることができた。</li> <li>・移動手段が限られる県西部で実施したことで、今回の取組みを活かし、同様に移動が容易ではない他地域についても今後取組みの実施に向けたきっかけとすることができた。</li> </ul>

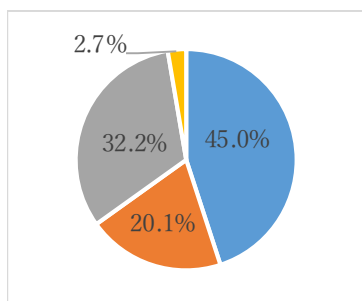
### (3) アンケート集計・分析

#### ■集計

大会来場者へ車いすラグビーに関するアンケートを配布し、その集計を行った。

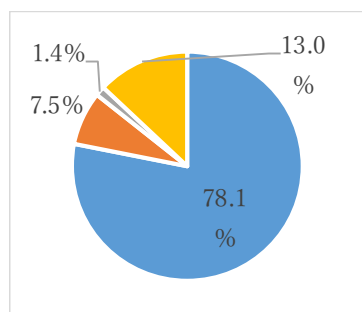
回答数：149（回答率89.7%）

1－（1）今までに車いすラグビーを観たことはありますか。



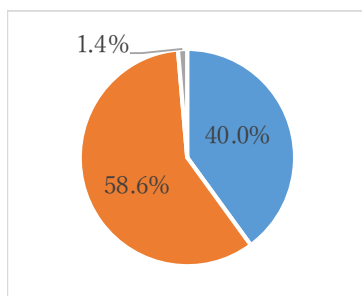
- ・テレビ等で観たことがある …… 45.0%
- ・実際に観たことがある …… 20.1%
- ・観たことがない …… 32.2%
- ・わからない …… 2.7%

1－（2）今後、車いすラグビーを実際に観に行きたいと思いませんか。



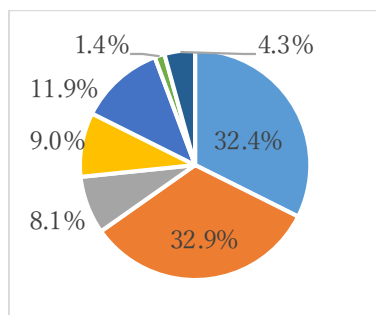
- ・県内であれば行きたい …… 78.1%
- ・県外でも行きたい …… 13.0%
- ・行きたいと思わない …… 7.5%
- ・わからない …… 1.4%

2－（1）今までパラスポーツをやったことはありますか。



- ・ある …… 40.0%
- ・ない …… 58.6%
- ・わからない …… 1.4%

2－（2）今後、パラスポーツをやってみたいと思いませんか。（複数回答可）



- ・近くであればやってみたい …… 32.4%
- ・仲間（友達・親子）と一緒にやってみたい …… 32.9%
- ・指導者がいればやってみたい …… 8.1%
- ・ボランティアスタッフとして参加してみたい …… 9.0%
- ・観るだけなら参加したい …… 11.9%
- ・やってみたいと思わない …… 1.4%
- ・わからない …… 4.3%

## ■自由記述の回答

### 1－（2）で「行きたいと思わない」と答えた理由

回答数「1」

- ・見慣れていないから

### 2－（2）で「やってみたいと思わない」と答えた理由

回答数「3」

- ・前にやったからもういい。車いすラグビーだけはやりたい。
- ・車いすラグビーが思った以上に激しくて怖いから。
- ・高齢（90歳）のため

### 3 車いすラグビー大会、体験コーナーについての感想など

回答数「63」

- ・見るよりも、実際にやってみる方が楽しいと感じた。
- ・ルールを知らなかったが、解説が入ることでわかりやすく観戦することができた。
- ・子どもが観に行きたいと言うので一緒に来た。観るととても楽しかった。
- ・試合だけでなく、準備や片付けを選手が自らやっていたことに驚いた。とても清々しいスポーツだと感じた。
- ・チームのSNSを見て岡山から観に来た。遠かったが来てよかった。
- ・西部でこんな試合が観れると思わなかった。とても満足している。
- ・いろんなスポーツ体験ができて楽しかった。丁寧に教えてくれた。
- ・障害があってもそれを感じさせないプレーの連続で、感動した。
- ・実際にやってみると、選手の方々がとても努力されているのがわかった。もっとやってみたい。
- ・宿毛市でもやってほしい。

## ■分析

### ①「みる」ことへの参加

#### 1－（1）

- ・車いすラグビーをテレビ等で観たことがある（45.0%）、実際に観たことがある（20.1%）、観たことがない（32.2%）であった。
- ・回答者のうち、約80%の方が実際に観るのは初めてであった。

#### 1－（2）

- ・今後実際に観に行きたいか、について、県内であれば行きたい（78.1%）と、県外でも行きたい（7.5%）と、「観に行きたい」との回答をあわせて 全体の85.6%であった。

今回の大会を通じて、車いすラグビーへの理解は一定深まったことが伺える。また、今後の県内での車いすラグビー大会等の開催に向けて前向きな回答が得られたことから、「みる」機会の拡充をさらに進めていきたい。さらに、少数ではあったが、県外での「みる」機会についての情報の発信についても今後取組みたい。

②「する」ことへの参加

2－（1）

- ・今までパラスポーツをやったことがある（40.0%）、ない（58.6%）と、約6割の来場者がパラスポーツ未経験者であった。

2－（2）

- ・今後、パラスポーツをやってみたいと思うかについて、近くであればやってみたい（32.4%）、仲間と一緒にやってみたい（32.9%）、指導者がいればやってみたい（8.1%）と、「やってみたい」との回答をあわせて全体の73.4%であった。

今回のパラスポーツ体験を通じて、「する」ことへ参加意識が大きく高まった。今後、地域地域における、さまざまな形の「する」機会の拡充のために、障がい者スポーツ指導員等と連携し推進していく必要がある。

③「ささえる」ことへの参加

2－（2）

- ・「ボランティアスタッフとして参加してみたい」との回答が9.0%であった。

少数ではあるものの、「ささえる」ことへの参加意識の高まりも伺えた。今回のような体験会等の機会を捉え、継続的に実施・検証することで、「ささえる」人材の発掘、確保の体制の強化を図っていきたい。

## 5 評価指標の達成状況

評価方法：集客結果、体験教室・大会実施後のアンケート

○評価指標 体験教室の参加人数：100人、大会の観客：100人

結果：体験教室の参加人数：109人、大会の観客：166人

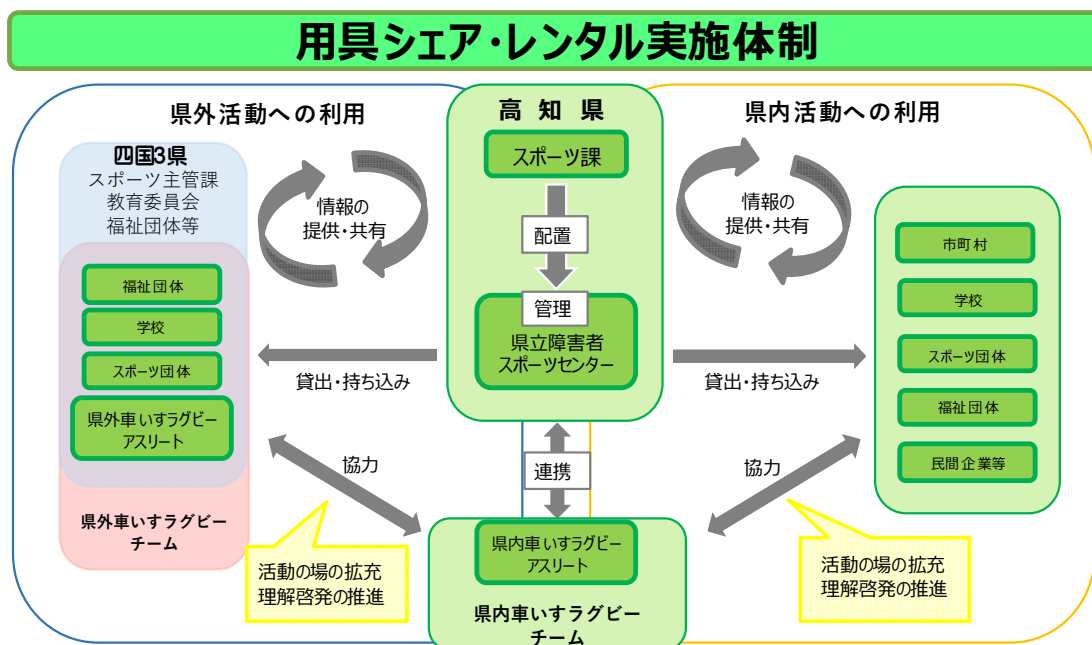
○評価指標 障害者スポーツを理解している人の割合が90パーセント

結果：アンケート回答「車いすラグビーを観たいと思う」85.6パーセント

○評価指標 障害者スポーツに参加したい人の割合が50パーセント

結果：アンケート回答「パラスポーツをやってみたい」73.4パーセント

## 6 購入した車いすの活用の仕組み



県立障害者スポーツセンターへ配置、管理の下、同センターでの利用者へのシェアや関係団体への取組みへの活用や、四国4県をはじめとした県外への情報発信や取組みへの活用など、県内外のさまざまな取組みに活用する。

具体的には、

- ・ 県内の車いすラグビーチーム、アスリートと連携し、チームの練習や活動への利用をはじめ、県内の市町村、学校、スポーツ団体や福祉団体及び民間企業等と協力し、県と関係団体が情報を共有しながら、体験教室や大会の開催など「する」「みる」「ささえる」活動の場の拡充、障害者スポーツの理解啓発の推進に活用する。
- ・ 県外の車いすラグビーチーム、アスリートに対し、用具の貸出しや活動機会の提供を行うとともに、他県との情報の提供・共有を図ることで、県が県内車いすラグビーチーム、アスリートと連携し、他県での車いすラグビーにおけるさまざまな団体の活動、取組みを支援する。

## 7 成果と課題

### ◇ 成果

- 子どもから大人まで、多くの方に車いすラグビーを体験してもらうことで、パラスポーツへの理解啓発に繋がった。
- 県西部の障がい者スポーツ指導員や福祉関係者との連携が強まり、障害のある方が身近な地域で参加できるパラスポーツイベントの良いモデルケースとすることができた。
- 県外のアスリート、審判員を招致することで、県内のパラスポーツを推進するネットワークが広がり、他県と連携してパラスポーツを推進する基盤を強化することができた。
- パラスポーツ体験コーナーや、観客、選手、スタッフ全員で床掃除での交流を通じて、障害の有無に関わらずスポーツに参加できる共生社会を体感・共有することができた。

### ◇ 今後の課題

- 本事業を一過性のものとせず持続可能な活動とするため、他の地域での活動も見据えた推進体制を構築していくことが必要。
- 四国4県の連携をより強固としていくため、本県の車いすラグビーや各県の特色を活かしたパラスポーツの取組みを継続して実施することが必要。
- 新たに整備したラグビー用車いすのシェア・レンタルする仕組みを実践し、さまざまな関係団体を巻き込むことで多様な意見を取り入れ、より有効な活用へと発展させていくことが必要。



# 参考

アンケート用紙

「 Freedom Cup 2022 」アンケート

今後のパラスポーツの取り組みを推進するための参考にさせていただきますので、アンケートにご協力をお願いします。 ※該当するものを○で囲んでください

あなたは           小学生          中学生          その他          

1 車いすラグビー大会について

(1) 今までに車いすラグビーを観たことはありますか。

          テレビ等で観たことがある          実際に観たことがある          観たことがない          わからない          

(2) 今後、車いすラグビーを実際に観に行きたいと思いませんか。

          県外でも行きたい          県内であれば行きたい          行きたいと思わない          わからない          

(3) (2) で「行きたいと思わない」と答えた方へ。その理由を教えてください。

[ ]

2 パラスポーツ体験コーナーについて

(1) 今までパラスポーツをやったことはありますか。

          ある          ない          わからない          

(2) 今後、パラスポーツをやってみたいと思いませんか。(複数回答可)

          近くであればやってみたい          仲間(友達・親子)と一緒にやってみたい            
          指導者がいればやってみたい          ボランティアスタッフとして参加してみたい            
          観るだけなら参加したい          やってみたいと思わない          わからない          

(3) (2) で「やってみたいと思わない」と答えた方へ。その理由を教えてください。

[ ]

3 車いすラグビー大会、体験コーナーについて、感想等があればご自由にご記入ください。

[ ]

ご協力ありがとうございました。